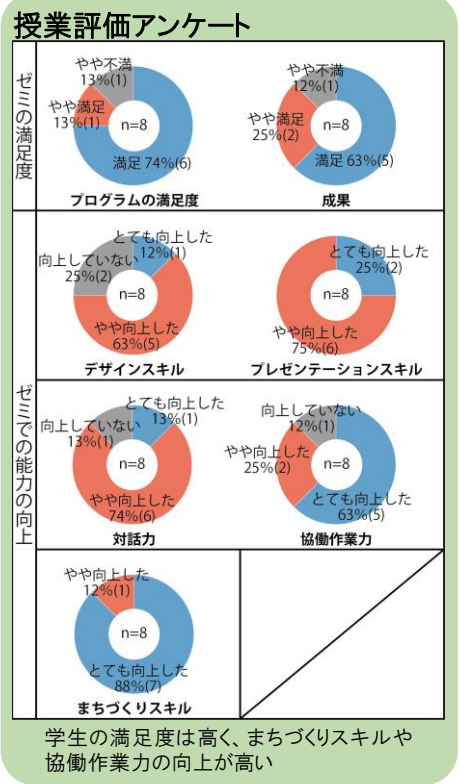
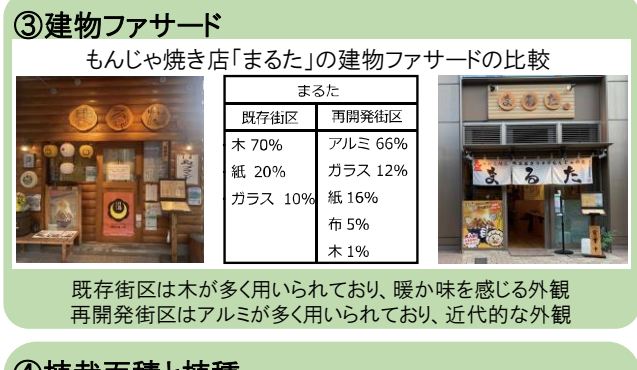
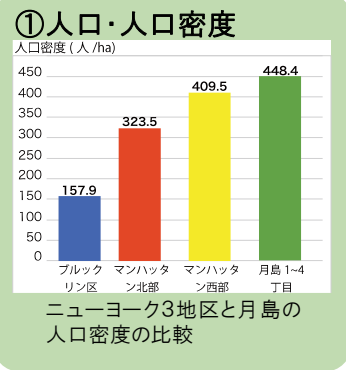


# 「内部河川・運河の活用とコミュニティ強化」プロジェクト

代表者	志村秀明【教授】(建築学部 建築学科)
構成員	郷田修身、原田真宏、篠崎道彦、桑田仁、佐藤宏亮、前田英寿(建築学部 建築学科)／岩倉成志(工学部 土木工学科)／松日楽信人(工学部 機械機能工学科)

## ■プロジェクトゼミ ～脱・近代都市を構想するin月島～

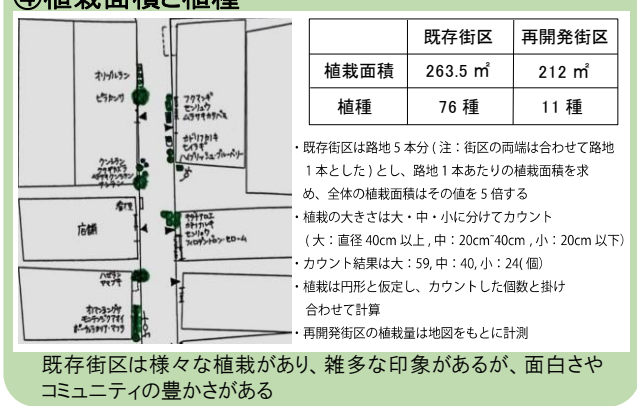
中央区月島の2番街の再開発街区(近代都市の特徴)と、3番街既存街区(月島らしさ)を対象地区として①人口・人口密度 ②建物状況 ③建物ファサード ④植栽面積と植種 ⑤交通量 ⑥歩行者行動の6点から調査・分析を行い、これからの目指すべき都市像を検討した。



### ②建物状況

	既存街区	再開発街区
総建物数	92	1
総建築面積	4,100㎡	3,350㎡
総延べ床面積	13,009㎡	53,679㎡
建ぺい率	71%	61%
建物ファサード延べ長さ	816m	285m
飲食店数	27	16
もんじゃ店数	15	9
その他商業店数	18	8
住戸数	97	503

対象街区の建物数や建築面積、建物用途などを調査



## 南会津PJ ～中山間地域の集落活動支援～

### ○南会津町訪問

南会津町への訪問は、コロナウイルスの影響で2年間途切れていたが、久しぶりに実施できた。11月3日から11月4日の2日間で、たのせ集落・前沢集落・湯ノ花集落・会津高原ホテルを訪問した。たのせ集落では、集会所にて、現在までの活動の共有とこれからのための議論や食品の加工場の見学を行った。大きな活動として、地域おこし協力隊の移住計画が進められていた。また、館岩支所にてネットワーク環境を含めたシェアオフィスの計画について議論した。



たのせ集落との意見交換の様子

前沢集落探索の様子

### ○地域おこし協力隊

1月24日のZOOMによる打合せにて、11月の訪問時に議論していた地域おこし協力隊の方と面談した。南会津町職員も同席していた。現在、南会津町にインターンシップ生としてお試し移住をしており、地域の魅力を現地での体験を通して実感されていた。



湯ノ花集落の風景

地域おこし協力隊との面談

## 空間地域デザイン演習 ～地域資源を活用するコミュニティ・デザインin佃島～

建築学部3年生が佃島を対象に、現代都市に対する様々な問題意識を背景に、学内では希薄になりがちな「現場」と「市民」から学ぶ体験を通じて、都市・建築デザインの基礎となる調査・分析の方法と技術、そしてデザイン手法を具体的かつ実践的に学んだ。

### ○佃図鑑 ～佃島を紐解く～

佃島地区を訪れ、歩いて探索し、地域の隠れた資源や特徴を分析した。また、地域住民との会話を通してコミュニティの現状や地域の課題を把握した。



### ○かけわらす ～過去から未来へ～

佃の魅力をもとめた佃図鑑を基に、地域の魅力を生かした4つのプログラムを提案し、佃島地区に住む人、また近隣の人が誇りを持って過ごすことを目的とした。



## 建築学演習・都市地域デザイン ～地域資源を生かした空間計画・エリアマネジメントの提案～

修士1年生が墨田区北十間川周辺地域を対象に、4つのねらいを持ち、建築及び都市デザインの提案を行った。

### —ねらい—

- ①: 都市地域の資源や課題を的確に把握し、社会に提示する能力を養う。
- ②: 獲得した専門知識を動員して、地域資源を生かした空間計画を立案し、デザインする能力を養う。
- ③: 空間の有効活用や環境の維持管理などの視点を踏まえた持続可能なエリアマネジメント手法の立案や実施プログラムの企画能力を養う。
- ④: 関連主体と連携しながら作業をし、市民を含めた広く社会に対して成果を発表する能力を養う。

### —発表—

地域の関連主体の方に、各グループで提案内容を発表し、地域目線での講評をいただいた。



発表の様子

### —調査—

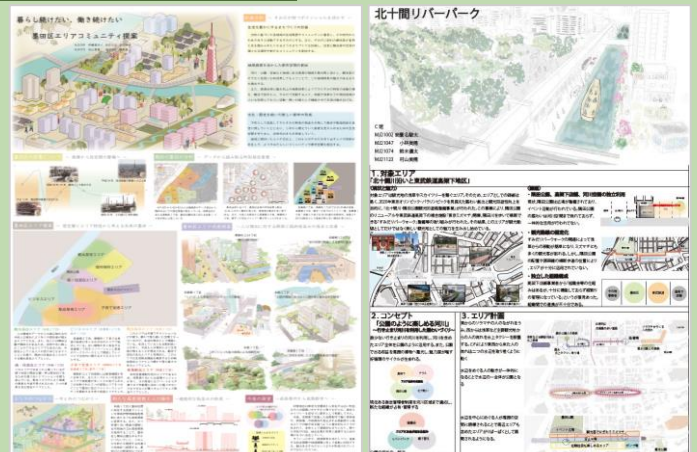
実際に現地を歩いて、地域の課題や資源を調査すると共に、地域の方の話から、住民目線の地域の印象をヒアリングした。



地域調査の様子

### —提案— 地域資源を生かし、魅力を高める

5つのエリアに分けられた対象地域に対し、各エリアを担当するグループを決め、現地調査や文献調査、住民意見を参考に、計画から運営まで幅広く提案した。最終成果物として、空間計画とエリアマネジメントの仕組みをポスターにまとめた。



最終成果ポスターの例